

## 流通業の急速な変化に対応するオープンシステム Open System for Rapid Upgrading of Distribution



北川 修身  
Osami Kitagawa

最近の流通業をとりまく経営環境は、価格破壊に始まる低コスト化への対応、生活者意識の多様化に伴う業態変化への対応、さらに価格破壊に伴う新しい業態との競争の激化など、厳しい状況が今後も継続するとみられている。このような経営環境を生き抜くため、流通業は情報武装化をいっそう推進して、情報システムによるBPR (Business Process Reengineering) を推進し、外部変化に対応しやすい、コスト競争力のある企業へ変革する努力がなされている。

一方、近年のコンピュータおよびそれを中核とした情報処理システム市場は、ダウンサイジング、オープン化などが急速に進展しているが、その傾向は流通業市場においても同様である。これまではメーカー主導によるプロプライアティのシステムが中心であったが、POS (Point Of Sales) をはじめとするコンピュータ利用が進み、今後はデータをどのように経営や品ぞろえに生かすのが課題となっており、人的作業を代行する情報システムから、蓄積された情報の分析を行う業務にシステムの利用が移りつつある。このような状況下ではユーザみずからが主体的に開発しそれを利用する、エンドユーザコンピューティング (EUC) 環境の実現が重要になってきている。

その結果、エンドユーザでの開発のしやすさ、市場のオープンなソフトウェアが利用できるオープンプラットフォームのシステム構築の要求が強くなってきている。

また、流通業をとりまく経営環境が厳しくなっているため、情報システム投資が抑制される傾向にあり、さらに、技術革新の変化が激しく、これまでに開発したソフトウェア資産を将来にわたって継続利用し、それを拡張していくことに対する不安が出始めている。その解決策の一つとして業界標準としてのマイクロプロセッサ、OSやネットワーク技術などを組み合わせることで、低価格で、将来にわたっても変化

に対応しやすい情報システムを構築する傾向が高まっている。

このような背景のなか、当社は業界標準に対応したパソコン (PC) やUNIX<sup>(注1)</sup>コンピュータなどオープンシステム商品の開発を推進しており、ラップトップPCの市場では業界のトップ企業として先端技術を取り入れた商品をいち早く提供している。

一方、小売り業におけるPOSシステム市場ではトップシェアをもつ(株)テックが、特化メーカーとしての強みを生かして先端技術を取り入れた商品のいち早い提供を行っている。

実際に、当社の代表的なシステムであるギフトシステムやPOSデータの分析システムがUNIXサーバとPCクライアントで稼働しており、(株)テックの代表的システムである店舗SA (Store Automation) システムがUNIXまたはPCサーバとPCクライアントによるオープンプラットフォームシステムとして稼働している。

当社グループでは、従来のシステム (システム資産を含む) と新しいオープンシステムが融合し、オープンシステムのメリットをうまくお客様のシステムに組み込んでいけるように配慮した商品開発を心がけ、それらの商品をインテグレートし当社グループが連携してお客様にトータルソリューションとして提供している。

今回の特集では流通業の動向を踏まえ、そのなかでの情報システムがどのように変化しオープン化へ向かっているかを紹介するとともに、当グループが流通業へ向けたシステム事業をどのように推進しているか、また当グループの今後の主力となるオープンプラットフォームをベースとした商品を紹介する。

流通業に向けたシステム事業は当社とその関係会社である(株)テックが連携して推進しているため、今回の論文も両社の共同による執筆を行った。